

子ども記者が体験!

本を音訳するステップ

視覚障害の方から読みたい本のリクエストが来てリスト化されています。その中から音訳者が得意とする分野のものをを選び、音訳をスタートします。

1 本を熟読し、原稿を書く

音訳をする前に、まずは音訳者がしっかりとその本を読み、理解を深めます。次に、図やイラストなど補足が必要な部分の原稿を書き、アクセント辞典(単語のアクセントが書かれた辞典)を見てアクセントを確認し、語り方を決めます。



2 録音

録音は、図書館内にある防音設備内で行います。1回の録音時間は、集中力が続き一定の声で読めるように1日2時間ほど。発音やイントネーション、句読点や伝わりやすい区切りなど、読み方にはたくさん決まりがあり、それらに気をつけながら読みます。



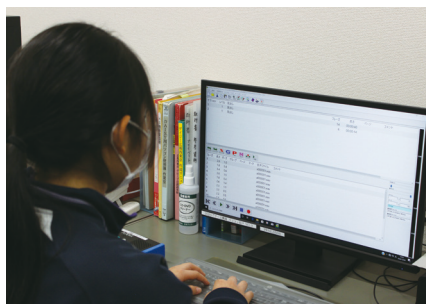
3 校正と修正

熟練音訳者が聞いて、読みや発音の間違いなどを校正します。指摘されたところを修正して、録音をし直します。なかなか1回では終わることはなく、3回以上やりとりすることもあります。



4 編集

たくさんの音源を本の内容とおりの順序に、入れ替えたりつなげたりします。全体を聞き直して、不自然なところがあれば、その一部分だけ再録音し、編集して仕上げます。



5 CDに記録する

そのままの音源は本によっては4〜6時間のものや、それ以上になるものもあるため、データを圧縮してCDに記録します。また、一度に何人分も必要となる広報物などは、専用の機械を使うことで一度に複数コピーが可能!



6 お届け

CDをデージー図書専用の箱に入れます。利用者と図書館をつなぐ専用の箱なので、郵便法で無料での送付や返却が可能になっています。



完成

完成した音訳データは、全国の図書館で利用できるように共通の蔵書に登録されます。



図書館だより95号3ページを実際に子ども記者が音訳してみました! 音声はこちらで聞くことができます。

「目」になる仕事
音訳者

音訳者が録音しているところ



私たちが取材しました!



田無第一中学校 子ども記者の皆さん

「音訳」というお仕事を知っていますか?

今、ここがピンチ

音訳界隈で問題になっているのが、深刻なり手不足。音訳者の高齢化も重なり、音訳そのものの存続が危ぶまれています。

西東京市では、音訳者になるには約2年の研修期間が必要です。また、音訳の仕事が一人でできるようになるには、練習や実地を繰り返す必要があるうえに、実際の音訳も準備から完成までには膨大な時間がかかります。小説1冊に半年から1年ほどかかるものも。

さまざまな部分で時間がかかるからこそ、将来の音訳者の数を減らさないためには、いまから音訳について学ぶ人を増やす必要があります。

音訳の重要性とは?

情報を得ることが難しい視覚障害では、音訳がとて大切な「情報源」となります。本にとどまらず、新聞や雑誌、書類や手紙なども音訳者が対応できるため、利用者の「これが読みたい!」という思いに幅広く対応することができます。

音訳者の仕事は?

視覚障害の方の目となり、情報を正しく読みあげることが仕事。朗読とは違い、感情を込めずに淡々と読み、聞きやすさを重視した話し方はかなり難しく、日々技術を磨き続ける必要があります。

デージー図書とは?



視覚障害などで活字を読むことが難しい方のために、本や雑誌を録音したCDを「デージー図書」と呼びます。特別な圧縮方法を用いているため、普通のCDよりも長い時間を録音することができ、1枚に約50時間も録音が可能です。また、読み上げ速度を調整でき、目次から読みたい章や節など任意のページ・場所に自在に飛べるという便利機能があります。デージー図書は、プレクストークという専用機器で聞くことができます。プレクストークは、貸し出しや購入補助制度などもあります。

図谷戸図書館 ☎042-421-4545

※デージー(DAISY)とは、「[Digital Accessible Information SYstem] (アクセシブルな情報システム)の略。世界50カ国以上で採用されている国際標準規格のシステムを指します。

利用者の声

西東京市視覚障害者協会 会長 野口さん

私は徐々に視力が落ち全盲となりました。目が見えていた頃は、仕事で学術系論文などを読むことが多く、必然的に活字を読むことが多かったですね。ヒトは情報の約80%を視覚から得ています。それが自分の目で読めなくなると「音」に頼るしかありません。皆さん必要な情報を得るときには、目次や斜め読み、絵図などで必要なことを見つけ、選択してから必要な部分を中心に見えていますよね。視覚障害になると、これができない。全部を耳で聞いてから、自分にとって必要かを判断したり全体を捉えたり、深掘りする部分を決めたりします。最初はこの「聞き慣れる」という部分が大変でした。

今はAIによる読み上げ機能は、イントネーションや抑揚も進化しています。でも音訳者のほうが文章の区切りや間が正確で、聞きやすく意味を捉えやすいです。ざっと概要だけ読んでもらって、必要な部分を探して読んでもらうこともできます。人とのつながりも感じられ、温かい気持ちにもなり、とてもありがたいですね。小説など長いものは、聞き返したり途中で止めたりできるので、便利なデージー図書を利用しています。

音訳者は私のできないことを代わりにしてくれて、その「声」は、正しい情報を耳から入れてくれていて大切なパートナーなんです。

